


所 属	現代社会学部 現代社会学科 (ビジネス文化専攻)		
主な担当科目	日本の固有文化Ⅰ、Ⅱ 社会学 ジェンダー論		
	氏 名	小川祐喜子	
	フリガナ	オガワ ユキコ	
	職 位	講師	
	学 位 等	博士(社会学)	
研究内容・社会業績等			
<p>1. 「劣化する若者支援——現場支援者の語りを手がかりに ——」、2021年度、令和3年度(2021年度)井上円了助成金、研究代表者</p> <p>2. 「若年無業者支援者に関する実証的研究」、2017年度～2019年度、科学研究費助成事業 若手研究(B)、研究代表者</p> <p>3. 『自己意識的感情』研究からみる若年無業者支援者の自我の様相——支援者の「感情労働」の現状を手がかりに——、2016年度、平成28年度(2016年度)井上円了助成金、研究代表者</p> <p>4. 「犯罪報道におけるジェンダー問題に関する実証的研究」、2016年～現在、平成28年度～31年度科学研究費補助金 基盤研究(C)、研究協力者</p> <p>5. 『『地域若者サポートステーション』における支援者側の『感情労働』のゆくえ』、2015年度、平成27年度(2015年度)井上円了助成金、研究代表者</p> <p>6. 「若年無業者支援からみる支援者の様相——地域若者サポートステーションの支援者の事例を通して——」、2014年度、平成26年度(2014年度)井上円了助成金、研究代表者</p> <p>7. 「犯罪報道における問題の顕在化と受け手の報道評価に関する実証的研究」、2012年～2016年、平成24年度～27年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)、研究協力者</p> <p>8. 「日本社会における若年無業者支援の現状と今後のゆくえ——地域若者サポートステーションの支援事例を通して——」、2010年11月～2013年2月、トヨタ財団2010年研究助成、研究代表者</p> <p>9. 『『ニート』、『ひきこもり』の自我・アイデンティティの変容——サポートステーションの支援を通じて』、2009年度、平成21年度(2009年度)井上円了記念研究助成金、研究代表者</p> <p>10. 『『ニート』、『ひきこもり』の社会的感情——当事者の対人関係からみるアイデンティティ——』、2008年度、平成20年度(2008年度)井上円了記念研究助成金、研究代表者</p> <p>個人研究では若者支援に関するものを研究テーマに、共同研究では犯罪報道およびジェンダーに関する研究を行っています。</p>			
論文・書籍・資格等			
<p>(著書)共著</p> <p>1. 宇都宮京子、西澤晃彦編、2020年、『よくわかる社会学』(第3版)、「自我と他者とのコミュニケーション」、ミネルヴァ書房(2006年に宇都宮京子編 初版)</p> <p>2. 宇都宮京子、小川祐喜子編、2015年、『社会がみえる社会学——時代と共に生きる社会学理論』、「相互行為の社会学——日常生活の自己・他者・相互作用を問う——」ほか、p.42-p.83、p.84、p.85、p.86、p.125、p.194、北樹出版</p> <p>3. 茨木正治、岡岡偉男、中島淳編、2010年、『情報社会とコミュニケーション』、「情報化社会とコミュニケーション」p.124-p.138、ミネルヴァ書房</p> <p>4. 船津衛編、2006年、『感情社会学の展開』、「自己感情」、p.67-p.76、北樹出版</p> <p>(論文)単著</p> <p>1. 「若年無業者支援の現状——地域若者サポートステーションの支援者事例から——」、『東洋大学人間科学総合研究所紀要』、第23号、2021年、p.97-p.108</p> <p>2. 「若年無業者支援の現状と課題」、『東洋大学人間科学総合研究所紀要』、第22号、2020年、p.159-p.168</p> <p>3. 「地域若者サポートステーションにおける若者就労支援の現状」、『白山社会学研究』、第18号、2011年、p.19-p.29</p> <p>4. 「『自己感情』と自己意識的『自己感情』」、『白山社会学研究』、第15号、2008年、p.13-p.22 ほか</p> <p>(論文)共著</p> <p>1. 「送り手たちの犯罪報道をめぐる予備的考察——犯罪報道の「問題」と送り手たちの現在——」、北出真紀恵、四方由美、大谷奈緒子、小川祐喜子、福田朋美、『東海学園大学研究紀要』、26号、人文科学研究編、p.15-p.30、2021年</p> <p>2. 「犯罪報道の共起ネットワーク分析(2)」、四方由美、大谷奈緒子、北出真紀恵、小川祐喜子、福田朋美、『宮崎公立大学人文学部紀要』、26巻、1号、p.79-p.92、2019年</p> <p>3. 「犯罪報道の共起ネットワーク分析(1)」、四方由美、大谷奈緒子、北出真紀恵、小川祐喜子、福田朋美、『宮崎公立大学人文学部紀要』、25巻、1号、p.57-p.69、2018年 ほか</p> <p>(受賞)</p> <p>2007年 白山社会学会賞</p> <p>2005年 東洋大学校友会学生研究奨励基金 校友会奨学金賞</p>			
学生へのメッセージ			
<p>大学での学びでの答えは、決して1つではなく、方法論が異なれば結論も異なります。ここに学ぶことの楽しさがあると思っています。</p>			